

第37回 うつのみやこども賞だより

令和2年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『あおいの世界』

花里 真希／著（講談社）



令和3年2月7日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library

～読んだ本の感想より～

- カナダへ引っ越して学校に通うなんて大変なんだろうと思った。
- カナダに来て、英語がしゃべれず困るあおいの気持ちにすごく共感した。
- 話に引きこまれるようで、どんどん進んだ。
- 「カナダに行きたくない！」そこからスタートして、友達との関係、日本とのギャップ、ゲイの話…。いろんなことがわかって、長いけど、おもしろい。
- あおいは控えめで大人しい子だから、あまり、新しいことにチャレンジしなかったけど、カナダに来てアディソンと一緒に活動するようになって、あおいが変化する様子が良くわかりました。

『団地のコトリ』

八束 澄子／著（ポプラ社）

- 登場人物の美月、愛梨、陽菜がそれぞれの理由で悩んでいますが、その三人が力を合わせて生きる様子が描かれていてとても感動しました。
- 美月は、とてもやさしくめんどうみがいいいいひとだと思いました。
- この本を読んで、自分に自信を持てたし、美月と陽菜ちゃんから勇気ももらえました。自分が思っている以上に苦しい思いをしている人がいるということを改めて感じられる本でした。
- 火事はとてもこわいなと思いました。

『山のうらがわの冒険』

みお ちづる／作（あかね書房）

- 山のうらに住むヤマビトたちと仲良くなっていく様子がおもしろい。
- 今、人類が読むべき本!! という帯をつけたいです。森や自然を大切にするヤマビトたちを尊敬しました。
- ヤマビトたちが、ヒロキの冷たい部分をなくしてくれてよかった。ヤマビトたちは、とてもすてきな生き方をしているなと思った。
- ふだん山登りするような山ではなく、「本当の」うらがわがえがかかれていたので、とても楽しめました。

『トッبران』

つげ みさお／著（国土社）

- 新しいはやく走れるくつ「トッبران」。でも、最終的に、その「トッبران」にたよらずに練習した自分を信じた航平はすごいなと思いました。
- 私も走るのがおそくて、夏休みとか、休みのときに練習していたときがあったので共感できた。
- 運動会で良い結果を残せるといいなと思いました。走り方の勉強にもなりました。
- 最後に、くつにたよらないで自分の力でがんばっていてすごいと思った！